

## 里見氏と里見八犬伝

館長 岡田晃司

2014年は、里見氏が江戸幕府による安房国から伯耆国への国替えの処置をうけて丸400年、さらに曲亭馬琴作『南総里見八犬伝』の刊行が開始されて丸200年という年でした。

八犬伝は、江戸時代末期から芝居として大当りを繰り返して、大正時代からは児

童向けの訳本が出版され、戦後は映画や人形劇で常に大衆化されてきたため、認知度が抜群でした。一方「里見氏」といえば、歴史上は全国史に登場することのない地方武将のため、「八犬伝」の「里見氏」として理解されてしまい、里見氏の歴史を八犬伝のストーリーで認識する

傾向が強くみられていました。

当館は開館当初から、戦国武将の「里見氏」と物語の「里見八犬伝」を渾然とされないための展示と活動をしてきました。架空の物語「八犬伝」の展示は模擬天守閣展示室で、史実の里見氏の紹介は本館の歴史展示室でと分けているのはそのためです。

写真は歌川芳艶が描いた「里見義実」ですが、歴史上の義実をイメージしたのではなく、八犬伝の登場人物としての義実が描かれています。義実を囲むように描かれた龍は、八犬伝中で、合戦を落ち延びた義実が三浦から安房へ渡る場面で現れたもので、史実で伝えられるものではありません。こうした八犬伝のイメージは根強く現代にも息づいています。

これまでこの当館の活動だけでは、この違いの理解を広げることができませんでした。昨年は里見氏を顕彰する市民の方々の活動が活発でした。八犬伝から脱皮して、里見氏の歴史を大河ドラマにしようという活動もあり、史実を伝える博物館の役割はますます大きくなっています。

版画「大日本豪傑水滸伝 里見義実」 歌川芳艶作



# 里見氏の遺産

第Ⅰ期・城下町館山

9月6日(土)～10月19日(日)

第Ⅱ期・古文書

2月14日(土)～3月22日(日)

## 里見氏が遺した町と

### 記録から地域を考える

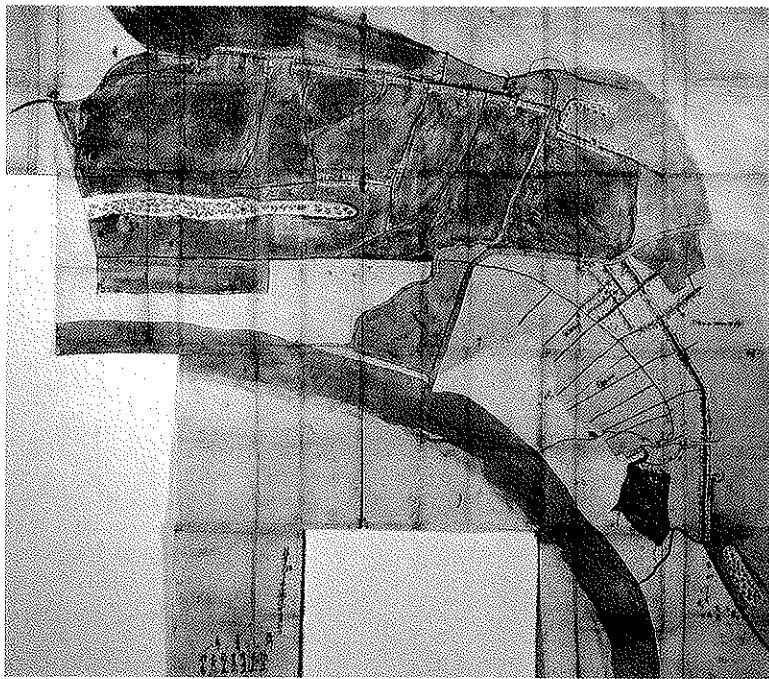
当館は昭和58年の開館以来、安房地方の中核都市としての館山市について、町の基礎を築いた里見氏の歴史と館山という地域の歴史的特性を紹介してきました。昨年は里見氏が安房を離れて400年という節目の年であったことから、里見氏と館山という町の関連について紹介しました。

特別展第Ⅰ期「城下町館山」東京湾の湊町」では、里見氏が遺した館山の町について、里見氏が安房を離れてからの館山の町はどのような性格をもった町だったのか、里見氏の時代にどのような町がつくられていったのかを考えました。そして、豊臣秀吉・徳川家康に仕えた館山城主里見義康・忠義父子の時代を中心に、東京湾での湊機能を活かしながら館山城下町が成立していく過程を追い、安房の地に果たした里見氏の役割を紹介しています。

さらに、江戸幕府のお膝元として

江戸が成長を始めるなか、東京湾の入口にある館山がどのような意味を持ったのか、海という視点から町の歴史を考えていただく機会となりました。

現在開催中の第Ⅱ期「古文書」では、里見氏が遺したものととして寺社や家臣の子孫に伝えられた古文書を紹介しています。博物館で収集する里見氏に関する古文書を通して、里見氏と安房の人々がどのように関わったのかを考えながら、里見氏が遺した古文書について解説しています。



館山町・長須賀村・北条村の町場を描いた絵図 正徳2年(1711)

第Ⅰ期の展示構成は、「Ⅰ. 江戸・明治時代の館山」で海上交通を輸送手段として多くの船が出入りしていた様子を示し、「Ⅱ. 町の起源を探る」で館山城の城下町として市が開設され商人たちを中心に町ができて運営される様子と、核となった館山城の姿を紹介しました。

さらに戦国期にさかのぼって「Ⅲ. 東京湾の里見氏」で、東京湾の水軍を掌握した里見氏と、東京湾の往行商人との関係を紹介、「Ⅳ. 天下人の時代」で、城下町が作られているの里見氏や安房の支配体制を紹介しました。最後に「Ⅴ. お国替え」で、里見氏移封後の安房の支配体制と町が維持されていく様子を紹介して、

里見氏の時代からの町の連続性と交通手段の変化による町の移り変わりを理解しました。

第Ⅱ期の展示構成は、博物館への寄贈や購入などによって収集した里見氏関

連の古文書と所蔵者から寄託された古文書の内容を紹介しながらも、「Ⅰ. 古文書の種類と形」で古文書の様式や折り方・巻き方・封の仕方などにも目を向け、文字だけでなく様々な楽しみ方があることを紹介しています。次章では、多くの古文書を伝えていた上野家と岩崎家の古文書を集め、「Ⅱ. 家臣の家系に残された古文書群」「Ⅲ. 城下町の歴史を伝える古文書群」として、テーマ設定をして紹介しています。そして「Ⅳ. 古文書の保存」として、古文書が折帖仕立や巻子装・軸装などに表装して大切に保存されてきた様子や、本紙の写しが作られたり、切断された一部でも残されてきた様子を紹介しました。

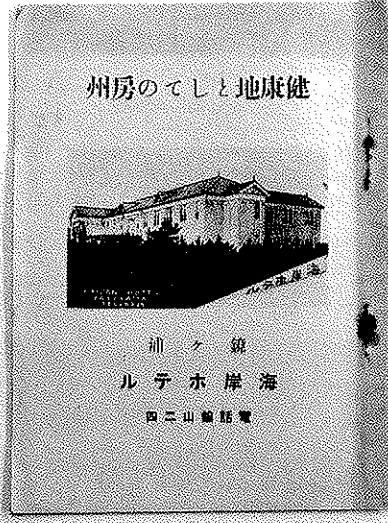
最後に、明治時代の内閣修史局による「Ⅴ. 明治時代の古文書調査」の様子や、その後の里見氏文書の調査と成果の公表を「Ⅵ. 古文書調査の成果」として紹介しています。戦後は自治体史を編纂するなかで盛んに古文書調査が行われ、個人で調査を行う人もいました。その成果として多くの古文書が活字化されて利用しやすくなり、里見氏の研究が進み、今も進化をしていることを紹介しています。

第Ⅰ期については、船の科学館・海と船の博物館ネットワーク支援対象事業として日本財団の助成を受けました。

# 資料紹介 『健康地としての房州』

市内館山にあった海岸ホテルが作成した宣伝用小冊子で、昭和元年（1926）頃のものと思われれます。タイトルでもある「健康地としての房州」のほか、全3編のコラムが載っており、著者はすべて館山病院の医師 穂坂与明博士です。

穂坂博士は後に院長にもなった人物で、房州の特徴について医学的見地から述べています。それによれば、



「房州には空気を清浄にする松並木が多く、海水浴に適した穏やかな海がある。さらに、夏涼しく冬暖かい「常春の国」であり、栄養価の高い牛乳と魚の産地である。このような理由から、穂坂博士は房州を「健康地」と評しています。

明治後半から大正にかけて避暑避寒や観光のために房州を訪れる人が増えていきますが、その中には療養を目的とした人もいました。海岸ホテルは、他の観光地とは異なる「健康地」という特徴をアピールするこ

## たてやまと 絵画のむすびつき

今年度は『公募絵画展「南房総たてやまを描く絵画展」』と『青木繁「海の幸」オマージュ展』という2つの絵画展を開催しました。また、館山の名誉市民である故・岩崎巴人氏の水墨画を常設展示しており、館山と絵画の結びつきは年々強くなってきています。

館山は絵画と縁が深い土地です。少女雑誌「ひまわり」の表紙などを描いた中原淳一は館山で療養し、地元の人々と交流を深めました。また、法隆寺の壁画を描いた寺崎武男も県立安房第一高校（現在の安房高校）で美術講師を務めていました。青木繁が布良の小谷家で「海の幸」を制作したことなどからも、館山は画家達に愛される土地であることがわかります。

また、今回「南房総たてやまを描く絵画展」を開催し、普段なにげなく見ている風景が、絵画という視点を得ることで新たな表情を見せると気づかされました。今後も絵画展をとおして、館山の良さを伝えていきたいと考えています。



青木繁「海の幸」オマージュ展 展示風景



「南房総たてやまを描く絵画展」 展示風景

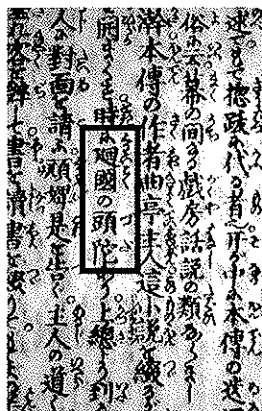
## ピックアップ八犬伝

### 謎の人物

### 「廻国の頭陀」

多くの人々に愛されている「南総里見八犬伝」は、平成26年で刊行開始200年を迎えました。

ところで、皆さんは戯作者である曲亭馬琴がなぜ「南総里見八犬伝」を執筆するに至ったかご存知でしょうか。八犬伝執筆中の裏話を記した「回外剩筆」によれば、文化11年（1814）の春、馬琴が何か執筆しようと机を拭き硯に向かった時、上総国から「廻国の頭陀」という人物がやって来ます。彼は諸国をめぐり、修行をしている僧侶で、話しているうちに、馬琴は勧善懲悪がテーマの里見氏についての話を書くことを決め、その年の12月には八犬伝第一輯の刊行となりました。



廻国の頭陀登場シーン

そして27年の月日が経った天保12年（1841）の秋、物語の結びを書こうとしていた馬琴のもとを、再び頭陀が訪れます。馬琴は失明の苦勞や八犬伝の人氣ぶりなどを時間を忘れて語りました。

話に夢中になっていた時、ふいに人定の鐘（現在の21時頃）が鳴り、頭陀は驚いて帰ろうとして行灯を倒してしまいます。その瞬間に馬琴は夢から覚め、果してどこまで夢だったのか、というところまで「回外剩筆」は終わっています。

つまり馬琴は、自分の執筆活動すら物語の一部にしてしまったのです。



# 博物館の活動 日誌ダイジェスト 平成26年4月～27年2月

## ◆平成26年4月

- 5日【渚の博物館】特別公開「復活した渡米漁民の万祝」開催（4月20日）観覧者4,217名
- 6日【本館】体験教室「甲冑を着よう」開催（以下、日曜・祝日ごと）に実施）体験者636名（2月8日）
- 19日【本館】新収蔵資料展「あたらしい資料のご紹介」コーナー展示「青い目の人形メリーちゃん」開催（6月8日）観覧者14,615名

## ◆5月

- 5日【渚の博物館】公募絵画展「南房総館山を描く絵画展」5月11日）観覧者8,124名
- 24日【本館】ミュージアム・サポーター養成講座「文化財の調べ方」石造物調査と拓本の取り方」開催。参加者11名



「文化財の調べ方  
—石造物調査と拓本の取り方—」

## ◆6月

- 7日【渚の博物館】安房学講座開催（2/7まで全8回）参加者479名
- 15日【本館】歴史教室「古文書を読んでみよう」日曜クラス開催（隔月第3日曜開催。全5回）
- 17日【本館】歴史教室「古文書を読んでみよう」火曜クラス開催（隔月第3日曜開催。全5回）
- 28日【本館】ミュージアム・サポーター養成講座「甲冑士養成講座」参加者3名



「甲冑士養成講座」

## ◆8月

- 5日【本館・渚の博物館】青木繁「海の幸」オマージュ展開催  
渚の博物館（第1会場）観覧者13,441名（31日）  
ミュージニセンター（第2会場）観覧者658名（24日）

## ◆9月

- 6日【本館】里見氏安房国替400年特別展第1期「里見氏の遺産・城下町館山—東京湾の湊町」開催（10月19日）観覧者6,729名

## ◆10月

- 26日【本館】語り部「さくら貝」公演  
参加者140名



「さくら貝」公演

## ◆11月

- 1日【本館】新・地区展「北条」開催（12月14日）観覧者6,397名

- 9日 歴史教室「わたしの町の歴史探訪—北条地区—」参加者42名

## ◆平成27年1月

- 1日 館山城正月臨時開館（3日）

## ◆2月

- 14日【本館】里見氏安房国替400年特別展第Ⅱ期「里見氏の遺産・古文書」（3月22日）

## 御協力に感謝します

寄贈資料名	寄贈者(敬称略)
ランプ・版木・ヒトツメガネ 他	勝浦市・矢代嘉洋
吉村虎太郎肖像画	館山市・横山芳美
万祝	館山市・鈴木久代
旅館荷札貼交帳	館山市・金木幹人
録音機	館山市・石井明
雛人形 他	館山市・杉本春枝
イソガネ・ウキダル 他	館山市・宮原義雄
沼サンゴ化石	松戸市・森上守野
教科書・レコード	南房総市・田村浩
俵詰め護符	南房総市・小林道子
網運搬用具・土錘	南房総市・平野三男
文書・典籍 他	館山市・尾加名博夫
戦前写真 他	館山市・長井晃弘
軍帽・正肩章	千葉市・太田征彦
船釘・ツバノミ 他	南房総市・石井近
徳利	館山市・瀧口和男
古文書・御用船印 他	館山市・浅井志保子
醤油製作関連用具 他	南房総市・尾形優
『画報躍進之日本』・安房復興館写真	館山市・神作英毅
ツノダル・ガラス瓶 他	南房総市・花輪英洋
安房法曹関係資料・軸 他	館山市・嶋田美智子
人形(佐野桜子氏制作)	館山市・吉田澄枝
海岸ホテル写真アルバム	館山市・矢矧文子
館山北条土木出張所関係書類 他	館山市・平嶋義久
折尺・計算尺	館山市・鎌田幸治